

南会津がつむぐ
新たな社会教育！

平成26年度子どもの夢をはぐくむ読書活動推進事業 読書活動支援者育成基礎研修（研修A-1）の報告

7月4日（土）に、只見町朝日振興センターにおいて、只見町教育員会と連携しながら第1回読書活動支援者育成基礎研修を実施し、69名の参加がありました。

研修の内容は、人形劇団ひぼぼたあむ代表の永野むつみ氏による「絵本を愉しむ～今、絵本で子育てを！～」を演題にした講演と、「歌と音楽と映像によるコラボレーション読み聞かせ」の実践発表でした。

永野氏の講演は、「読み聞かせに参加する子どもの心情」、「『読み聞かせ』という言葉の持つ意味」、「『ごんぎつね』に隠された作者の想い」、「『花咲き山』と人生哲学」、「『絵本』の中にある人生論」、「素読で読み手に伝える」、「『大きなかぶ』にある楽しいこだわり」、「読み方のちょっとした技術」、「聞き手を意識した読みについて」などの内容で、笑いとうなずきの連続で、あっという間の1時間30分でした。

コラボ読み聞かせは、内田美智子作「いのちをいただく」の絵本を、藤原歌劇団団員 渡部史子氏の歌、ヤマハ音楽教室システム講師 湯田真琴氏のピアノ演奏、田島小学校読み聞かせボランティア 横山早智子氏の語りで行い、感動の余り、ハンカチで涙を拭う方が多数いらっしゃいました。

アンケートの結果、講演も実践発表も、9割5分以上の人が大変参考になったという評価でした。「今日は、参加して本当に良かった。最高の日でした。」「今後もこのような研修をやっていただきたい。」「絵本をますます好きになりました。子どもと一緒に楽しみたい。このような企画をしていただき、本当にありがとうございました。」「という感想をいただき、企画・運営・参加者全員が満足した研修会となりました。

惜しむらくは、先生方や保護者のみなさんが参加できる時間を設定できなかったことでした。



南会津夢教育学校紹介

～ 南会津っ子一人一人の夢 実現のために ～

「田島小と歌舞伎」

南会津町立田島小学校

毎年、7月22、23、24日に田島祇園祭が行われます。田島祇園祭は800余年の歴史があり、田島小学校学区内で行われるため、祇園祭で行われる行事にもたくさん子ども達が参加をしています。

そんな中、本校では平成22年度から3年生の総合的な学習の時間で「歌舞伎ワークショップ」に取り組み、5年目を迎えました。

「歌舞伎ワークショップ」では、演技者としての「役者」、「義太夫」、「後見」などのグループと、裏方としての「大道具」、「小道具」などのグループの大きく2つに別れて活動します。そして、歌舞伎を上演するまでの一連の過程を体験し、秋の校内学習発表会や冬の御蔵入交流館での発表会で披露します。

それぞれのグループごとに東京からお招きした先生方のご指導を受けます。

演技者グループでは、言い回しやみえの切り方などの所作やおじぎの仕方などの作法を学び、3年生とは思えないほど、本物の役者のように上達していきます。一方、裏方グループでは、家のふすまや竹などの樹木の制作のお手伝い、手に持つ道具などの髪飾りの準備、収納といった道具の扱い方を学んでいきます。

「歌舞伎ワークショップ」の活動を終える頃になると、演技の出来映えだけでなく、子ども達の心の成長が強く感じられるようになります。

総合的な学習の時間のねらいである「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。」だけでなく、地域の伝統文化の継承が多くの方々協力可能となっています。



新任校長
「 想 い 」

南会津町立檜沢中学校
校長 目黒 和志

南会津での勤務経験が全くなかったため、南会津の教育の現状をほとんど知らずにいた私にとって、地理的条件や自然的条件等を考えると、この地はどちらかというと教育に関しては不利な地域というイメージが強かった。実際、本校においても、人間関係の固定化、競争心の欠如、生徒数の減少による諸活動の制限など、へき地校・小規模校独特の課題も見られる。

しかし、これまで先輩の先生方は、地域が持つそれらの課題を逆に積極面としてとらえ、家庭や地域の教育力、古来の伝統や文化、あるいは密接な人間関係という、地域の持つ特長を十分に活かした教育を続けてこられた。そして、その姿勢は今も脈々と先生方に受け継がれていることに気づかされる。また、加えて中高連携、学習サポート事業、学校支援員の積極的配置等、他地区ではあまり見られない手厚い措置も施されていることを考え合わせると、南会津の教育環境はマイナスどころか、これ以上なく恵まれていることを強く感じる。

そのことに感謝し、保護者や地域の方々、関係諸機関とのつむぎあいを大切にしながら、先生方と共に子どもたちの教育に全力を尽くしていきたいと思う。

新任教頭
「 南会津に励まされて 」

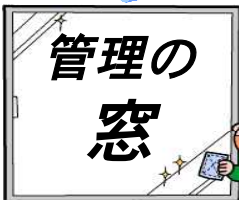
只見町立只見小学校
教頭 柳沼 信之

「きょうとうせんせい、だいすき！」
夏休みのプール開放の時、一緒に水遊びしていた1年生から言われた言葉に、私は思わず面映ゆくなった。

新任教頭としての赴任当初、机のPC画面に向かい下を向いていることが多かった。僅か53名の子どもたちの顔と名前が一致しない期間が長かった。それ故、先生方が職員室で話す子どもたちの話題に入り込めず疎外感を感じることもあった。

そんな時、毎日眺めている蒲生岳に一人登ってみた。慎重に岩の壁を登っていくと、田子倉ダム湖の湖面が見え始めやがて山頂へ。素晴らしい眺望に、周りの山々の懐に抱かれて生きている実感を味わった。この経験は、これまでの自分を振り返る機会となった。「初めてのことだから」と甘えがあったかもしれない。子どもたちのために今やることを逸してはいけないと自分を戒めた。

私は、今、南会津の雄大な自然や継承されてきた文化、ここに住まう人々の強さに感動している。このプリミティブ<根源的>さが、人として生きる基準と考えている。この南会津の誇りを子どもたちに伝えていくため、先生方との協働により教育活動の充実に努めていきたい。



年度当初の域内教育委員長・教育長・小中学校長合同会議や教頭会、学校事故防止対策研究協議会をはじめとして、全小中学校へ県教育長のメッセージを所長から伝達するなど様々な機会を活用して、学校事故防止や不祥事根絶等へ取り組んでいただき感謝申し上げます。

会議へ参加された教頭先生の感想に「不祥事根絶には、メンタルヘルス関係を含めて、日頃の良好なコミュニケーションなど職員間の人間関係が大事であるとあらためて気づかされました。まずは、しっかり聴く耳を持ちたい。」とありました。どの学校においても、研修を生かしながら、様々な話題でコミュニケーションを図り、風通しのよい職場づくりに学校全体で取り組んでいただいています。「チーム〇〇」として、学校の「ベクトル」をそろえることが不祥事根絶にも学力向上にも大きな力になると思われれます。

さて、「PDCAサイクルを生かして教育活動を」と様々な機会に当事務所でもお願いしています。各学校の不祥事の根絶等についても他の教育活動と同じように、PDCAを意識していただくことが重要です。年度当初に提出された各学校の教育計画を見せていただくと「P」の段階はきちんと整備されています。

課題となるのは「D」以降の部分で、個人情報保護や適正な会計事務処理等において、「D」の段階で「P」との『ずれ』が生じて不祥事につながってしまっていることがあります。「P」や「D」に課題はないか十分に「C」を加え、次の「A」につないでいただければと思います。



編集後記

あっという間に夏休みが終わり、もうすぐ2学期が始まります。子どもたちはどんな「夏休み」を過ごしたのでしょうか。子どもたちに再会（再開）するのが楽しみです。